

【言葉による見方・考え方】

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

国語 小学校

1 指導内容を重点化・明確化した単元構成

- 各学年での既習事項を踏まえ、重点を置く指導内容を明確にします。
- 児童が主体的に学習に取り組むことができるよう、相手意識、目的意識を明確にした言語活動、日常生活と関連を図った言語活動を設定します。
- 教師は設定した言語活動を実際に行い、モデルを示します。育成を目指す資質・能力を適切に評価できるかを確認し、児童が学習の見通しをもてるようにします。

2 全体の学習課題とつながる本時の課題設定

- 児童が最後まで目的をもって言語活動ができるよう単元全体の学習課題とつながる本時の学習課題を設定します。
- 「なぜ、そのように話すとよいのか」「なぜ、そのように書いているのか」など、目的や理由、効果を考える学習活動を位置付けます。
- 児童が自らの学びや変容、言葉のもつよさについて振り返ることができる場面を設定します。

3 国語科で育成すべき資質・能力と他教科等との関連

- 育成すべき資質・能力の系統性を学習指導要領の指導事項で確認し（当該学年、前後の学年・中学校との関連）、指導します。
- 学年の担当者間で国語科と他教科等との教科等横断的な視点について共通理解を深め、学習の効果を高める指導計画を作成します。

国語 中学校

1 指導内容を重点化・明確化した単元構成

- 小学校や各学年での既習事項を踏まえ、重点を置く指導内容を明確にします。
- 相手意識、目的意識を明確にした言語活動、社会生活と関連を図った言語活動を設定します。
- 教師は設定した言語活動を実際に行い、育成を目指す資質・能力が適切に評価できるかを確認し、単元の目標、評価規準を設定します。

2 全体の学習課題とつながる本時の課題設定

- 資質・能力を育成する学習として機能するように、グループ活動や交流での話し合いの意図や目的を明確にします。
- 生徒が考えを話したり書いたりしたことを、他の生徒に問い返し、曖昧な点を指摘し合う中で、考えを支える根拠を挙げる場面を設定します。
- 生徒に対して教師が何を指導し、何を考えさせるのかを明確にします。自らの学びや変容、言葉のもつ価値について振り返ることができる場面を設定します。

3 国語科で育成すべき資質・能力と他教科等との関連

- 育成すべき資質・能力の系統性を学習指導要領の指導事項で確認し（当該学年、前後の学年・小学校との関連）、指導に当たります。
- 各教科等の担当者間で国語科と他教科等との教科等横断的な視点について共通理解を深め、学習の効果を高める指導計画を作成します。

指導の一層の充実に向けて

- 学習評価については、評価規準に基づきワークシートやノートへの記述、グループ活動における児童の発言など、特にどの部分を評価するのか焦点化を図り、児童の学習状況を適切に見取りましょう。
- 育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせるため、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況の児童の姿や、「努力を要する」状況への手立てを具体的に想定した上で指導しましょう。